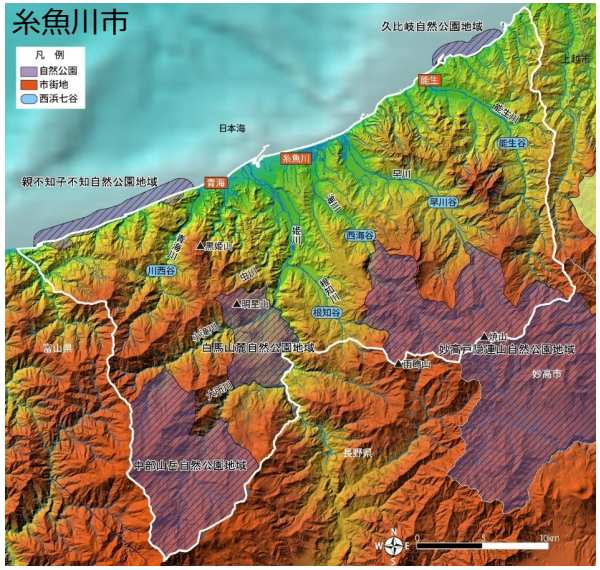
12　糸魚川市文化財保存活用地域計画　【新潟県】

【計画期間】令和６～10年度（５年間）
【面　　積】746.24㎢
【人　　口】約4.0万人
【関連計画等】
糸魚川ユネスコ世界ジオパーク
（ユネスコ世界ジオパーク、H21年）



指定等文化財件数一覧

種別			国	県	市	国登録	計
有形文化財	建造物		3	0	6	11	20
	美術工芸品	絵画	0	0	2	0	2
		彫刻	2	7	30	0	39
		工芸品	0	2	8	0	10
		書跡	0	0	7	0	7
		古文書	0	0	8	0	8
		考古資料	0	3	3	0	6
		歴史資料	0	0	8	0	8
	小計		5	12	72	11	100
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		3	0	4	0	7
	無形の民俗文化財	風俗慣習	2	0	3	0	5
		民俗芸能	1	0	2	0	3
	小計		6	0	9	0	15
記念物	遺跡（史跡）		3	2	9	0	14
	名勝地（名勝）		1	1	0	0	2
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）		11	3	16	0	30
	小計		15	6	25	0	46
文化的景観			0	–	–	–	0
伝統的建造物群			0	–	–	–	0
合計			26	18	106	11	161

指定等文化財は、１６１件
未指定文化財は、１，３４４件把握

糸魚川市の歴史文化の特徴

自然環境・地理的環境、社会的状況、歴史的環境、そして指定・未指定文化財の特徴から、糸魚川市の歴史文化の特徴を以下のように整理した。

1 ジオパークのまち

糸魚川市は日本で最初のユネスコ世界ジオパークに認定され、日本列島を横断するフォッサマグナとその西端を画する糸魚川－静岡構造線など日本列島の生い立ちを物語る地質の多様性がある。この特徴ある大地に、私たちの祖先が独特で多様な文化を花開かせてきた。

2 世界最古級のヒスイ文化発祥の地

糸魚川市の大角地遺跡からは縄文時代前期（約6,500年前）のヒスイ製敲石が見つかり、長者ケ原遺跡や寺地遺跡などでは、縄文時代中期（約5,000年前）にヒスイ製装飾品の加工が盛んとなった。その加工品は、日本各地や朝鮮半島へ広く流通した。

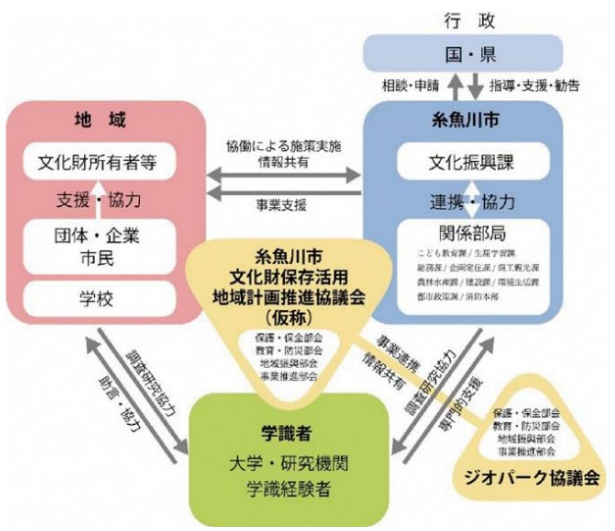
3 境界が作り出す歴史文化の交流の地

糸魚川市－静岡構造線が通り、東日本と西日本の境界に位置する糸魚川市は、様々な東西文化の混在地域となっている。越中、信濃との国境には城館が築かれ防備が固められる一方で、加賀街道と松本街道が交わり廻船業も盛んであった当地は、広域的な情報や文化が行き交った。

4 あらゆる災害を乗り越えてきたまち

糸魚川市は自然環境が多様であるがゆえに、時には災害をもたらし、人命財産へも影響を及ぼした。先人は、それを克服しながら、育まれてきた多様な風俗慣習や伝統を後世に伝え続けてきた。

推進体制



文化財の保存・活用に関する将来像と基本的な方向性

【将来像】

地域総がかりで文化財を次世代に確実に継承し、歴史文化の魅力にあふれる誇れるまち

【基本的な方向性】

文化財を次世代に確実に継承するために

①所有者・市民・地域・事業者・行政が、文化財の価値と保存の重要性を正しく理解し、それぞれの役割、責務の下、どう動き、どう関わるかの指針を示すよう努める。【調査・研究】

②文化財保存団体の設立や後継者不足等の諸問題の解決に努める。【人材・仕組み】

③文化財の適切な収蔵管理と公開に努める。【保存・管理】

④災害や犯罪から未然に文化財を守る防災・防犯対策が確実に実行されるよう努める。【防災・防犯】

歴史文化の魅力にあふれる誇れるまちとするために

⑤教育面での文化財による郷土愛の醸成に努める。【教育普及】

⑥埋もれているお宝の掘り起しで地域の誇りを高めるよう努める。【地域づくり】

⑦古から育まれた糸魚川市の歴史文化の特徴を活かした活動を着実に進める。【魅力づくり】

⑧文化財施策とジオパーク活動の連携、協働、融合による、より適正かつ有効な文化財の保存と活用を進める。【体制づくり】

【課題】

【調査・研究】【人材・仕組み】【保存・管理】

第5章
・学術調査等が十分でなく評価が定まっていない文化財がある
・体系的な調査研究が実施されていない
・継続的に調査が行われていない遺跡がある
・文化財を保管、収蔵する施設の保存環境が十分でない
・人口減少や少子高齢化により、歴史文化の担い手が不足している　等

【防災・防犯】

第6章
・防災・防犯のための体制の整備、訓練などの取組みが十分でない
・ヒスイレスキュー活動の認知度が高くない　等

【教育普及】【地域づくり】

第7章
・歴史文化の価値や魅力が、市民に十分に理解・共有されていない
・各学校で、地域と連携して、歴史文化や文化財を深く学習できていない　等

【魅力づくり】

第8章
※関連文化財群ごとに記述

【体制づくり】

第9章
・歴史資料等の保存・管理を専門とした職員がいない
・庁内他部局や市民、関係団体との連携体制が構築されていない　等

【方針】

【調査・研究】【人材・仕組み】【保存・管理】

第5章
・建造物の実態把握と更なる価値の解明に向けた調査を推進するとともに、未指定文化財と指定文化財の詳細調査に努める
・体系的な調査研究を推進する
・主要遺跡の継続調査を推進する
・既存の施設を活用しながら、望ましい環境を作り、収蔵庫等の整備を推進する
・文化財が地域の宝として市民に認識されるように広報を推進する　等

【防災・防犯】

第6章
・防火・防災・防犯体制を整え、所有者・管理者、市民の意識向上を推進する
・ヒスイレスキューの周知化と更なる活動の強化を推進する等

【教育普及】【地域づくり】

第7章
・糸魚川の歴史文化の価値や魅力を伝える取組を推進
・学校教育との連携により、歴史文化を守り、活かす輪を地域に広げる　等

【魅力づくり】

第8章
※関連文化財群ごとに記述

【体制づくり】

第9章
・適材適所の人材配置を推進する
・ジオパーク推進部局をはじめとする他部局との垣根を超えた連携体制の整備をする　等

措置の例

【調査・研究】
1 文化財の詳細調査の実施

谷村美術館や中門造り民家などについて、文化財としての価値付けや評価に資する詳細調査を実施。
■行政、所有者等
■R６～10

中門造り民家

【防災・防犯】
40 ヒスイレスキューの制度化

指定範囲外でのヒスイ盗掘防止の観点から、レスキュー制度化を促進。
■行政、市民
■R６～10

盗掘されたヒスイ

【教育普及】【地域づくり】
41 歴史講座、巡検、古文書勉強会等の開催

市民が文化財に親しむ機会を増やすために、歴史講座、巡検、古文書勉強会等を開催。
■行政、市民
■R６～10

巡検の様子

歴史文化の特徴から生みだされた９つの関連文化財群のテーマ

【歴史文化の特徴】	【関連文化財群】	
ジオパークのまち	(1)大地と人と －大地の形成の歴史と人の営み－	糸魚川－静岡構造線を挟んで、西側は「西南日本」、東側は「東北日本」と呼ぶ。糸魚川の西南日本側には、古生代・中生代の地層や岩石が分布し、約5億年前のヒスイや、約3億年前の石灰岩からなる明星山、黒姫山などがある。
	(2)大地と自然と －急峻な地形が育んだ豊かな自然環境－	水深約2,000mの海底から標高約3,000mの山々まで高低差5,000mの急峻な地形と豊かな自然。この特徴的な自然環境に多様な動植物が生息・生育する。
世界最古級のヒスイ文化発祥の地	(3)ヒスイとその利用と －ヒスイ原産地と加工集団の拠点－	日本随一のヒスイ産出地である当地では、縄文時代以来、道具としての利用に加え「玉（ぎょく）」への加工が盛んとなり、古墳時代までその加工遺跡が形成された。
	(4)女神とヒスイと －日本神話の女神と日本最大のヒスイ産地－	『古事記』や『出雲国風土記』などに所縁のある伝説や伝承地が多く残され、当地域を治めたとされる奴奈川姫やヒスイについて語り継がれている。
境界が作り出す歴史文化の交流の地	(5)越中信濃国境と城館と －武家社会における軍事・経営拠点－	本市は越中、信濃との国境を有する。中世以降、国境の防衛のため軍事的・政治的拠点として多くの城・館の整備が行われた。
	(6)交易と街道と －交通発展から見る歴史と文化－	近代化以前の物資流通は険阻な悪路を人の背や牛馬による運送に頼っていたものの、本市は陸と海の結節点でもあり、物資の集積や商いの発達によって、町は賑わいを見せた。
	(7)山と海と －人々の暮らしと信仰－	本市には中世・近世からの伝統を引き継ぐ民俗芸能や年中行事あるいは民具等が大切に、今に伝わっている。
	(8)相馬御風の業績と地域文化の近代化	相馬御風は、在京の研究者との交流を続けながら、文芸活動に励み、短歌結社では広く市民と共に活動し、良寛研究でも多くの人々にその教養の裾野を広げることにつながった。
あらゆる災害を乗り越えてきたまち	(9)引き継がれる災害の記録	先人は、多くの災害を克服してきており、その記録化もまた先人の努力で行われてきている。薄れゆく記憶と、忘れ去られた災害の事実を記録し、防災教育にいかす活動が取り組まれている。

白馬連山高山植物帯

長者ケ原遺跡出土ヒスイ

松本街道　ウトウ

能生白山神社舞楽

【関連文化財群】(3) ヒスイとその利用とーヒスイ原産地と加工集団の拠点ー

1．概要

本市は、日本随一のヒスイ産出地であり、世界最古級のヒスイ文化発祥の地とも言われている。当地でのヒスイの加工は、縄文時代中期（約5,000年前）に盛んとなり、ヒスイの玉類（大珠）は長者ケ原遺跡や寺地遺跡をはじめとしたヒスイ加工遺跡から列島各地に供給された。その後、ヒスイの加工は古墳時代中期（５世紀）まで継続された。

約6,500年前の敲石（ハンマー）の石材として、ヒスイの利用が始まったと考えられる。縄文時代以来、道具としての利用に加え、「玉（ぎょく）」への加工が盛んとなり、以後古墳時代まで、その加工遺跡が形成された。

本市がヒスイ産地であることから、原産地近くに立地する遺跡はヒスイ加工を裏付ける特徴的な出土品が豊富にある。

2．構成する文化財

小滝川硬玉産地（国指定）、青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊（国指定）、寺地遺跡（国・市指定）、長者ケ原遺跡（国指定）、大角地遺跡、笛吹田遺跡、六反田南遺跡、一の宮遺跡、後生山遺跡、大塚遺跡、前波遺跡、南押上遺跡、横マクリ遺跡、ヒスイ原産地立地遺跡出土品、須沢角地遺跡、西角地古窯跡、山崎A遺跡、前波南遺跡、館野遺跡、北平遺跡、新割遺跡、原山遺跡、寺地遺跡出土品（県指定）、田伏玉作遺跡出土品（県指定）、長者ケ原出土遺物（市指定）、硬玉製大珠（市指定）、王朝国家期出土品（製塩土器・石錘･八稜鏡･木簡)

小滝川硬玉産地

3．保存・活用の課題

・史跡長者ケ原遺跡・寺地遺跡の個別計画策定による、追加調査と適切な保存・活用が不十分。
・海岸のヒスイの転石について、市民や観光客に対する保護についての周知が不足している。

4．保存・活用の方針

・ヒスイ加工遺跡の追加調査を実施し、ヒスイ利用の実態の更なる解明を進める。
・ヒスイの保護について、市民や観光客に対する周知を推進する。

5．措置

65 史跡長者ケ原遺跡の保存活用計画策定
保存活用計画の策定を推進
■行政　■Ｒ６

66 史跡寺地遺跡保存活用計画の策定
保存活用計画の策定を推進
■行政　■Ｒ８

59 持続可能なヒスイ原産地の実現
保護のルールを明確化し周知
■行政、市民　■Ｒ6～９

上空から見た長者ケ原遺跡